

目次

1 読書計画策定にあたって

- (1) 計画策定の趣旨 1
- (2) 計画の目標と重点方針 1
- (3) 計画の位置づけ 2
- (4) 計画の期間 2

2 第2次計画の検証および読書活動の現状と課題

- (1) 第2次計画の取組状況および検証 3
- (2) 子どもの読書活動の現状 4
- (3) 図書館における取組の現状と課題 5
- (4) 学校における取組の現状と課題 7
- (5) 幼稚園・保育園における取組の現状と課題 10
- (6) 地域・家庭における取組の現状と課題 12

3 子どもの読書活動推進のための具体的取組

- (1) 図書館における今後の取組 15
- (2) 学校における今後の取組 16
- (3) 幼稚園・保育園における今後の取組 16
- (4) 地域・家庭における今後の取組 17

1 読書計画策定にあたって

(1) 計画策定の趣旨

「子どもの読書活動の推進に関する法律」(平成13年法律第154号)第2条(基本理念)において、「子ども(おおむね18歳以下の者をいう。以下同じ。)の読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、全ての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。」とあります。

これを踏まえ、国においては2018(平成30)年4月に、県においては2020(令和2)年3月に、それぞれ子どもの読書に関する第4次計画が策定され、おおむね5年にわたる施策の基本的方向と具体的な方策が示されました。

本市においても、こうした国や県の動向を踏まえ、2016(平成28)年3月に策定した「豊後高田市子どもの読書活動推進計画(第2次)」における取組の成果と課題を検証し、本市における子どもの読書活動の更なる推進を図るために「豊後高田市子どもの読書活動推進計画(第3次)」を策定します。

(2) 計画の目標と重点方針

本市では、第2次計画に基づき、子どもの読書をめぐる環境の整備を推進してきましたが、現代の情報化社会の著しい変化を踏まえ、子ども一人ひとりに本の楽しさを伝え、子どもの自主的な読書活動の一層の推進を図ることを目標に、新たに第3次計画を策定し、次の方針のもと読書活動を推進します。

① 計画の目標

**子ども一人ひとりに本の楽しさを伝え、
子どもの自主的な読書活動の一層の推進を図る**

～ ふれる・見る・聞く・読む・調べる ⇒ 本って楽しい! ～

子ども読書活動を推進していくうえで重要なことは、子どもが読書を好きになることです。読書好きの子どもを育てるためには、発達段階に応じた適切な本との出会いが不可欠であり、優良な本との出会いは子どもたち

の読書意欲を湧かせます。子どもが「いつでも」「どこでも」本に接することができる環境づくりや、子どもの自主的な読書活動を促進し、生涯にわたる読書活動につなげます。

② 計画の重点方針

計画の目標である「本の楽しさを伝える」ため、次の重点方針のもとそれぞれの年齢や環境に応じた読書活動の推進を行います。

■重点方針1

子どもの読書活動の意義や重要性についての普及啓発活動の推進

子どもの自主的な読書活動を推進するため、子どもと保護者、周囲の大人へ読書活動の意義や重要性について周知啓発を行い、共通理解のもとで読書活動の推進を図ります。

■重点方針2

図書館、学校、家庭、地域等が連携した読書活動の推進

子どもの自主的な読書活動を促進し、読書習慣を形成するためには、図書館・学校・家庭・地域において、乳幼児期から発達段階に応じて読書に親しめるように配慮した環境づくりを行うことが重要です。

特に子どもの読書活動の推進にかかわる学校、関係機関がそれぞれ担うべき役割を果たすことはもとより、緊密に連携・協力を図りつつ、取組を推進していくことが求められています。

(3) 計画の位置づけ

子どもの読書活動推進に関する法律（平成13年法律第154号）に基づく、市町村における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画として策定します。

また、令和2年3月策定『第2期豊後高田市まち・ひと・しごと「活力」創生プラン』および『第2次豊後高田市総合計画（改訂版）』の「夢を描き実現できる“ぶんごたかだっ子”の育成」における「知・徳・体を総合的に育む学校教育の推進」において「豊かな心の育成」のための取組として読書活動を推進するものとしています。

(4) 計画の期間

本計画の期間は、策定時よりおおむね5年間とします。

2 第2次計画の検証および読書活動の現状と課題

(1) 第2次計画の取組状況および検証

平成27年度に策定した第2次計画に基づき、学校および市立図書館の活用促進、4月23日の「子ども読書の日」を中心としたイベントやボランティアによる定期的な読み聞かせ等、学校、家庭、地域が連携し読書活動を推進する環境整備や取組を行ってきました。

① 市立図書館の活用促進

第2次計画で挙げた資料整備、ボランティアとの連携、スタッフの資質向上については、おおむね達成できたものと考えています。しかし、ボランティアについては、高齢化による減少といった課題も出てきました。広報や啓発、学校等との連携も一定以上の成果は発揮したものの、まだまだ図書館を利用したことのない児童が多いのも事実です。さらなる周知を図り、利用者の増加へつなげていきます。

② 学校図書館整備

学校においては、子どもたちの自主的な読書の推進を図るため、市内全小・中学校の学校図書館の整備を行ってきました。平成22年度図書登録・平成23年度貸出電算化により、蔵書の登録、利用者の登録、貸出返却、蔵書検索などの効率化が図られました。

ア 学校司書の雇用

高田中学校以外には、図書館専門職員が配置されておらず、図書担当教諭が司書教諭としての役割を担っていましたが、学校図書館の一層の充実と利用促進を図るため、学校図書館指導員を雇用しました。

- ・平成26年度から3名雇用
- ・図書館整備、新規購入図書の受入及び登録、破損図書の修復、児童生徒の読書や選書のアドバイス等を実施。
- ・図書の紹介や検索を容易にできるようディスプレイや配置に配慮。

イ 図書資料の整備

図書担当教諭、学校司書の選書により、各学年に応じた図書や資料の充実を図りました。

③ ボランティア等の地域人材育成

ア 読み聞かせ友の会の研修実施

読み聞かせボランティアグループのネットワークを活用した情報交換やボランティアの読み聞かせの資質向上をめざし、研修を実施しました。

イ 一般市民・PTA向け研修実施

学校図書館コーディネーターを講師として、読み聞かせボランティア・PTA等を対象に、図書のラミネート装丁講習会を実施しました。

④ 検証

ア 読書アンケートの実施

市内には小学校11校、中学校6校があり、全児童・生徒数1,523人（R3.12.1時点）が在籍しています。本市の子どもの読書に関する現状を把握し、「第3次豊後高田市子ども読書活動推進計画」策定に資することを目的として、令和3年12月に、小学校2年生145人、5年生137人、中学校2年生132人の児童生徒及びその保護者392人を対象に、読書活動アンケートを実施しました。

イ 検証

アンケート結果から、読書が好きな児童生徒の割合が、学年が上がるにつれて、減少するという状況は依然として続いています。その理由として、習い事や部活動などで読書をする時間がないことが考えられます。そのような中でも、本を読まない子どもの読書意欲を高めるためには、子ども自身が読書の楽しさを感じる機会を増やしていく必要があります。

また、学校図書館コーディネーター雇用、学校図書館指導員配置等により、子どもの読書活動の環境整備や活動機会は増えているので、学校では「朝読書」や「読み聞かせ」、授業における「読書の時間」や「調べ学習」での学校図書館の活用を充実させ、市立図書館では「おはなし会」や「調べる学習コンクール」の開催を通して、子どもの読書機会を増やしていく必要があります。

(2) 子どもの読書活動の現状

情報社会の著しい進展により、テレビやゲーム・インターネット・スマートフォン等、様々な情報メディアの活用が低年齢化しており、子どもたちの「読書離れ」「活字離れ」「コミュニケーション不足」は深刻化しています。本との出会いは、現実では体験できない創造的、空想的な世界を生み、考え方や生き方を学び世界観を広げ、夢や希望をもつことができます。読書によって、多くの言葉を学び、幅広い知識を身につけ、感性を磨き、人とのつながりを深めることができることを改めて周知していく必要があります。

このような中、全国学校図書館協議会が全国の小・中・高等学校の児童生徒の読書状況について毎年調査を行っている「第66回読書調査」

の結果によると、2021年5月1か月間の平均読書冊数は、小学生は12.7冊、中学生は5.3冊、高校生は1.6冊であり、前回に引き続き全体的に増加の傾向にあります。また、1か月間に読んだ本が0冊であった児童生徒（「不読者」と呼ぶ）は、小学生が5.5%、中学生が10.1%、高校生が49.8%となっており、前回に引き続き全体的に減少の傾向にあります。（第66回読書調査結果より一部抜粋）

一方、豊後高田市では、令和3年度に実施した読書アンケートにおいて、不読者の割合は、小学校2年生が4.1%、小学校5年生が2.2%、中学校2年生が5.3%となっており、全体では3.9%でした。ほとんどの子どもが1冊以上の本を読んでいることになり、全国と比べても、不読者の割合は少ないものの、平成27年度の全体3.2%と比較し、増加しています。

また、1か月の読書冊数で最も多い「21冊以上」では、小学2年生では、平成27年度40.0%が20.7%に、小学5年生では、12.6%が10.2%に減少し、中学2年生では、平成27年度3.2%が12.9%に増えています。様々な情報メディアの活用の低年齢化による読書離れがうかがえます。

（3）図書館における取組の現状と課題

①図書館の概要について

平成25年2月に新築開館した現図書館は、年間に約10万人が利用しており、豊後高田市の知の拠点として確立されつつあります。また、50席ある学習室や日当たりのよいロビーも、たかだっ子たちの学びや憩いの場として有効に活用されています。

開館当初は、約10万冊だった蔵書も現在は約14万冊を数え、目標の16万冊に向けて整備を進めている途中です。14万冊の内、児童書は約3万5千冊、また、電子図書館にも児童、中高生向けのコンテンツを揃えているところです。

蔵書整備とともに、子ども向けの講座やイベントにも積極的に取り組んでいます。定例のおはなし会等の他にも、季節や流行に合わせた講座、地域の伝統行事など、様々な観点から催しを行っています。

②図書館の取組について

ア 「おはなし会」「花こづちシアター」の定期的な実施

毎週土曜日に図書館内で読み聞かせボランティアによる「おはなし会」を開催しています。毎週日曜日は図書館所蔵の映像資料による「花こづちシアター」を実施しています。

イ 読書週間事業の実施

子ども読書週間（4/23～5/12）や全国読書週間（10/27～11/10）において、図書館ボランティアとともに、イベントや講座を開催しています。

ウ 読書感想文・読書感想画コンクールの開催

児童生徒の読書意欲を高揚させ表現力を高めるため、市内小・中学生を対象に募集しています。感想画は、各校の優秀作を図書館ロビーで期間展示しています。

エ 図書館を使った調べる学習コンクールの開催

「図書館を使った調べる学習コンクール」の地域コンクールを開催し、子どもたちに本を使って調べる手順や楽しさを学んでもらっています。優秀作品は年末の表彰式で表彰した後、全国コンクールへ推薦応募しています。

オ 図書館見学・図書館業務体験の推進

子どもたちに図書館を知ってもらうため、図書館見学を小学校や幼稚園、保育園などへ推奨しています。生徒数の多い学校は、休館日の火曜日を利用して案内しています（スクールサービスデー）。大分県立図書館主催の子どもの読書リーダー育成に、平成30年度より毎年取り組み、21名の小学生が認定されています。学校や地域の図書館での活動を通じて、子どもから子どもへ読書の楽しさを伝える取組を推進しています。

また、中学校には、職場体験活動の受け入れを積極的に行っています。

カ おせたい、おひなさまめぐりの開催

地域行事である「おせたい」や商店街が行っている「おひなさまめぐり」に図書館も参加しています。伝統行事や地域連動することで、子どもたちに図書館を身近に感じてもらい、伝統文化についても学んでもらっています。

キ 絵本原画展

夏から秋にかけて、絵本原画展を行っています。令和元年度は「怪談えほんシリーズ」と「ぬいぐるみおとまりかい」、令和2年度は郷土絵本「くにさきの鬼」、令和3年度は絵本「十二支のお雑煮」の原画を展示しました。また、原画展に併せて絵本作家にもお越しいただき、ワークショップや講演会も行っています。

ク 電子図書館の充実

電子図書館内にて、児童向け電子書籍も増やしています。音声付き絵本は、読み聞かせにも利用でき、英語音声対応の昔話絵本は、小さい頃からの多言語教育にも役立ちます。

ケ ジュニア桂畔等の発行

児童向け図書館だより「ジュニア桂畔」を隔月（年6回）で発行しています。また、随時ホームページや Facebook を更新し、図書館情報の発信を行っています。

コ 子ども向けイベントの開催

夏休みには宿題用の工作会、冬休みにはクリスマス用のリース作り、他にも館内でのおぼけ屋敷、ハロウィンイベント、バレンタインイベントなど、季節や流行に合わせた様々な企画をしています。本に興味がない子どもたちにも図書館へ来てもらうことで、読書推進につなげる目的です。

サ 学校配送サービスの実施

各学校から Web 予約された図書を図書館スタッフが学校へ配送します。立地状況から、図書館へなかなか行くことができない子どもに読書の機会が大きく広がりました。また、図書を活用した授業にも役立っています。

③図書館における課題

ア 1か月間に1度も地域図書館を利用していない児童が、全体の64%と3人に2人となっています（児童アンケート問14）。コロナ禍での外出自粛中のアンケートでしたが、図書館利用者数は年々減少しており、並行して「読書量」（児童アンケート問9）も減少しています。まずは、図書館利用者数の減少を食い止めることが喫緊の課題です。

イ 地域図書館へ行かない理由の中で、小学2年生は「今まで行った事がないから」が34.8%と大きな数値となっています（児童アンケート問15）。これもコロナ禍が大きな要因と考えられますが、一般的に、小さい頃に図書館を使わなかった子どもは、大きくなってからも図書館は利用しない傾向にあります。幼稚園、保育園、小学校低学年など低年齢層への図書館利用促進が必要です。

ウ 電子書籍については、利用したことがある割合が7%と非常に低い数値です（児童アンケート問16）。電子図書館は、まだ児童向け図書や有名作家の魅力的なコンテンツが出版されないため、利用も少ない状況です。しかし、今後ますます広がる電子社会や GIGA スクール構想にとって、電子図書館の充実は欠かせません。子どもたちにとって有用な電子書籍での学習環境を整えるべく、図書館としてサービスの構築に努める必要があります。

（4）学校における取組の現状と課題

①学校における現状

学校では、読書活動を「生きる力」を身につけていく上で欠くことのできないものと捉え、子どもたちが生涯にわたって読書に親しみ、読書を楽しむ習慣の形成と情報活用能力の育成をめざし読書活動の推進を行っています。

市内の各小・中学校では、子どもの読書活動を推進するため、学校図書館が担う「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての機能を充実させるとともに、市立図書館との連携、地域のリソースの活用等を図り、「自ら本に手を伸ばす子ども育て」をスローガンに、次のような取組を進めています。

ア 行きたくなる「学校図書館づくり」

・学校図書館資料の整備・充実

子どもの意見や各教科等での有用性を踏まえた資料選定を行い、子どもの知的活動を増進し、様々な興味・関心に応える図書資料の整備・充実を行っています。

・学校図書館環境の整備・充実

自由な読書活動の場、「心の居場所」となるよう読書スペースの設置をしています。また、図書館入口に配架案内や季節ごとの掲示を行ったり、新刊やお薦め本の紹介コーナーを設置したりするなど環境整備を行っています。

・学校司書の配置

子どもと本をつなぐ「人」の配置を促進しています。週1～5日各校に学校司書が勤務し、選書の相談にのるなど、子どもと本をつなぐ取組を進めています。

・定期的な図書館だよりの発行

学校図書館に関する情報など、子どもたちの興味・関心が高まるよう工夫しています。

イ 「朝読書」活動

全ての子どもに本を読む環境をつくり、本のおもしろさに出会ったり、読書習慣を身につけたりすることを目的に、市内の全小・中学校で「朝読書」に取り組んでいます。これまでの継続した取組により、84%の子どもが「読書が好き」と感じています。

また、本を読むようになったきっかけとして「面白いから、楽しいから」という理由が突出しています。他にも、「友だちが読むから」という要因があげられていることから、朝読書が有効であることが分かります。

ウ 読書関連行事等の実施

各小・中学校では、「読書週間」や「図書集会」を開催しています。図書委員や図書部による本の紹介や、学校司書による「ブックトーク」、

「読書がんばりカード」の活用等、子どもが読書に親しむように工夫した取組を行っています。

エ 授業での学校図書館の活用

授業で積極的に図書資料を使って学習ができるよう、教科に応じたブックリストを作成し、並行読書や授業での図書館活用など教諭と図書館をつなぐ取組を進めています。

教科書に掲載されている作者の他の作品を重ねて読む、課題を解決するために図鑑や百科事典で調べる、自分のお気に入りの本を紹介する、同じテーマの本を読んで読書座談会をする等の活動を行うことで、子どもと本をつなぐ機会を増やしています。

オ 読み聞かせサークル、ボランティア等との連携

全ての小学校で、保護者や地域の方々による「読み聞かせ」が行われています。子どもによる読書活動の推進として、「朝読書」の時間に中学生が小学校へ行って読み聞かせをする地域もあります。自分で読むことが苦手な子どもたちにとっても、本と出会うよい機会となっています。

カ 家庭との連携

家庭と連携した読書活動の推進として、「親子読書」や「家読」、「ノーマディアデー」に取り組んでいます。テレビ等を消して、一緒に本や新聞を読む時間をもつようにすすめており、低学年では、82.7%の子どもが、家庭で読み聞かせをしてもらった経験があります。

キ 市立図書館との連携

団体貸し出しの利用、市立図書館主催のスクールサービスデーや調べる学習コンクールへ参加等、市立図書館との連携を進めています。

②学校における課題

ア 読書の習慣化のために、「朝読書」や授業での図書資料の活用、地域・家庭との連携を進めていますが、「読書がどちらかという嫌い」「嫌い」と感じている子どもが16%います（児童アンケート問2）。その理由として、読みたい本がないから等があげられています。

今後も、子どもたちが手を伸ばしたくなるような選書、読み聞かせ、子どもと本をつなぐ人の配置の促進が望まれます。子ども自身が読書の楽しさを感じる機会を増やしていく必要があります。

イ 学校司書の配置により、迅速な図書の受け入れや学校図書館の環境整備等を進めていますが、複数校を兼任するため十分な取組までには至っていません。人的配置の促進とともに、学校図書館運営・管理の効率化のための方策を模索していく必要があります。

ウ 各小・中学校の蔵書状況については、整備すべき蔵書数となる図書標準比率が100%に達している学校が17校中4校と全体の23%に

とどまっています。特に、図鑑や百科事典等は改訂の状況を確認し購入するなど、読書環境の整備を進めていく必要があります。

- エ 授業で活用する図書資料について、一校の図書館だけでは、資料を確保することが困難な状況があります。市立図書館や各校どうしのネットワーク化を図って行くことが求められます。

(5) 幼稚園・保育園における取組の現状と課題

①幼稚園・保育園における現状

各園では、絵本や紙芝居を活用しながら、園児が読書の楽しさを知ることができるような活動を積極的に行っています。園児たちは遊びや活動の中で、日々興味・関心のあることに目を向け、職員や友だちと共感し合いながら、絵本に親しみをもち、紙芝居や大型絵本、パネルシアターを心待ちにしています。

ア 読み聞かせの取組

職員による季節や行事、発達段階等に応じた絵本・紙芝居を選択し、「読み聞かせ」に取り組んでいます。家庭でふれることの少ない大型絵本や布の絵本などにも出会える機会を作ります。また、月1回の誕生会の時には、ボランティアの保護者による絵本の「読み聞かせ」を行っています。

イ 読書コーナーの充実

子どもたちがいつでも好きな本にふれられるように、コーナーを充実させています。ポップを活用した目を引く展示方法、季節ごとの絵本の紹介等、工夫を凝らし、子どもたちが興味・関心を持って、利用しやすい環境づくりをしています。

ウ 発達段階に応じた取組

各学年で、発達段階に応じた取組を行っています。

1・2歳児は、季節、子どもの興味や関心に配慮し、良質な絵本で読み聞かせを行い、親しみやすく絵本への興味が広がるよう紙芝居や大型絵本、パネルシアターを行っています。

3・4歳児は、日々いろいろな分野の絵本に出会い、発表会の劇・オペレッタにつないだり、活動との関連で導入に読み聞かせをしたりしています。

5・6歳児は、日々の絵本とのふれあいはもちろんですが、遊びや活動を通じて、疑問や不思議に思ったことを詳しく調べたりする手段として、様々な本や図鑑を用いた調べ学習にも力を入れています。

エ 家庭での取組、保護者への働きかけ

週1回の絵本の貸し出しを実施し、子どもたちが選択した絵本を家に持ち帰り、家庭での絵本の読み聞かせも推進しています。乳幼児期における絵本の大切さを認識してもらい、家庭における読書推進に努めます。また、園児に人気がある絵本や読んでほしい絵本をクラスだより等で紹介、保護者にも、絵本や読み聞かせに興味をもってもらうよう働きかけています。

オ 職員の研修の充実

読み聞かせの技術向上や選書等、職員のスキルアップを目指して研修を進めています。また、子どもの読書に関する情報を得られるように情報交流を行い、読書活動の推進に努めています。

②幼稚園・保育園における課題

ア 絵本環境の充実

園児が絵本に身近にふれるためには、園全体の読書コーナーだけでなく、各教室の読書コーナーも充実させていく必要があります。そうすることで、絵本に親しむ友だちに目を向けることもでき、一緒に読んでみようという気持ちになると考えます。

イ 家庭での取組、保護者への働きかけ

週1回の絵本の貸し出しでは、家庭での絵本の読み聞かせの実施に偏りがあります。今後は、実態を把握しながら、貸し出しの回数や保護者の読書コーナーの活用方法を検討し、保護者への絵本の読み聞かせの呼びかけを定期的に行うことが必要です。

(6) 地域・家庭における取組の現状と課題

①読み聞かせボランティアグループの活動状況

豊後高田市読み聞かせグループ名簿

No	団体名	活動内容	メンバー (人数、保護者、地域の方など)
1	(高田小学校) おはなし小箱	毎月第1・3火曜日 8:30~8:45 絵本等の読み聞かせ	保護者、地域の方(18名)
2	(桂陽小学校) おはなしうさぎ	毎月第2・4木曜日 8:20~8:30 読み聞かせ	保護者、地域の方(18名)
3	(河内小学校) つばさ	隔週月曜日 朝4・5・6年生 隔週木曜日 朝1・2・3年生 河内っ子フェスティバル参加 河内公民館でのイベント参加	保護者、地域の方(4名)
4	(都甲小学校) おおきなかぶ	戴星学園にて 毎月第1・3火曜日 8:20~8:35 読み聞かせ	保護者、地域の方(5名)
5	(草地小学校) 若葉の会	毎月1回、朝の15分間読み聞かせ 草地っ子フェスタ参加 市立図書館読み聞かせに参加	保護者、地域の方(6名)
6	(呉崎小) マリーゴールド	毎月第2金曜日 8:30~8:45 読み聞かせ	保護者、地域の方(4名)
7	(田染小学校) スマイル	毎月1回、8:20~8:40読み聞かせ 年3回エプロンシアターやパネルシアター、手遊びも実施 学習発表会参加、田染公民館祭参加	保護者、地域の方(5名)
8	(真玉小学校) おはなしコスモスの会	毎週金曜日 8:25~8:40 読み聞かせ	保護者、地域の方(7名)
9	(白野小) 団体名なし	毎月2~3回、火曜日 8:30~8:45 読み聞かせ	地域の方(5名)
10	(三浦小) 読み聞かせサポーター	毎月第1金曜日 8:30~8:40 低・高学年に分かれ読み聞かせ	地域の方(2名)
11	(香々地小学校) しおかぜ	第2・第4水曜日 8:15~8:25 読み聞かせ	保護者、地域の方(7名)
12	(児童館) (市立図書館) トムソーヤ	毎月第2土曜日隣保館で読み聞かせ 毎月1回、土曜日市立図書館で読み聞かせ 人権福祉まつりへの参加	4名

13	(夢いろ幼稚園) 夢のくに	毎月1回、誕生会で読み聞かせ	保護者(6名)
14	(キラリいろ幼稚園) 読み聞かせ「コスモス」	毎週金曜日の朝 読み聞かせ 12月の第3週はクリスマスバージョンの 読み聞かせ	地域の方(3名)
15	(子育て支援花っこ) おはなしの時間	花っこルーム「おはなしの時間」 毎週月曜日、火曜日	スタッフ(8名)
16	(学校、各種イベント) 影絵劇団けやき座	影絵劇、朗読、リコーダー演奏、 要望依頼にて活動 玖珠童話祭参加 福祉施設コスモスイベント参加	8名
17	(市立図書館) ねえよんで	毎月1回、土曜日市立図書館で読み聞かせ	2名
18	(市立図書館) 三つ葉のクローバー	毎月1回、土曜日市立図書館で読み聞かせ	2名

②地域における現状

地域における子ども読書活動の取組では、市内全体において18組の読み聞かせボランティアグループが、学校や各種イベントで読み聞かせやペーパーサート等の活動を行っています。

全ての学校に読み聞かせグループがあることから、児童は1年生の時から地元グループの読み聞かせに親しんでおり、同時にボランティアのメンバーである保護者や地域の方たちと交流が深められています。また、ボランティアグループは少人数のグループが多いですが、活動内容をさらに充実させることを目的に、平成24年に「豊後高田市読み聞かせ友の会」を結成し、情報交換や連携した取組、合同研修会等活動の強化を図っています。

学校以外では、児童館での読み聞かせやNPO法人アンジュ・ママンが運営している子育て親子つどいの広場「花っこルーム」での読み聞かせが定期的に行われています。

未就園児から児童までの多くの子どもに、読み聞かせの機会が作られています。

③地域における課題

学校での読み聞かせは、学校支援地域本部事業の活動の一環として保護者や地域の読み聞かせグループにより定期的に実施されていますが、学級数の多い学校では人材が足りない場合があります。

地域教育力の向上が求められている現在、子どもへの読み聞かせの機会を十分に提供するため、新たな地域人材の発掘と育成が必要となります。

さらに、保育園、幼稚園、学校以外での読み聞かせについても、図書館、児童館、子育て支援イベント等で様々なグループが活動しています。全ての子どもに対し、読み聞かせや本とふれあう機会をより多く提供できるよう、団体間の連携を図るとともに、ボランティアの資質向上の取り組みが必要となります。

④ 家庭における現状

家庭での読書活動への理解や協力が必要であることから、家庭への情報提供として、令和2年度から10月を“読書の秋”と位置づけ、市報「ぶんごたかだ」で市立図書館特集を組む取り組みを始めました。

家庭教育支援事業の一環として発行している子育て情報誌「ほのぼの通信」でも本に親しむ環境づくりやボランティアグループによる「読み聞かせ」の案内等を行ったところです。

また、どんな本を選んでよいかわからないという声に対して、全国学校図書館協議会選定の「よい絵本」が紹介されたリーフレットを市立図書館や子育て支援施設に設置しました。

保護者を対象とした読書アンケートでは、子どもの読書活動に対しては、「とても重要」と捉えている保護者が全体の半数以上であり、読み聞かせの必要性を含めると約96%の保護者が子どもの読書活動の重要性を感じています（保護者アンケート問8）。しかし、家庭での読み聞かせの状況を見ても、全体で26%がしたことがないと回答しており、重要性を感じながらも実施までにはたどり着けていない様子です（保護者アンケート問9）。

読み聞かせ以外に家庭で行っている読書活動推進としては、「図書館や本屋に連れて行く」が最も多く、次に「子どもと本について話す」があり、子どもが本や読書へ関心をもつ働きかけを行っています（保護者アンケート問16）。

保護者自身の読書については、「好き」「どちらかというが好き」が全体の70%で、多くの保護者が関心をもっていることが分かります。しかし、1か月に読んだ本の冊数では、「0～1冊」が70%であり、本は好きだが読むことはあまりできていない状況がうかがえます（保護者アンケート問1）。

⑤ 家庭における課題

多くの保護者が、子どもが本とふれあい読書をするを大切に感じている反面、読み聞かせをしたことがなかったり、自分自身も読書をするができなかったりと、親子で読書の時間を共有することができにくい状況があります。

子どもが本を読まない理由の中で最も多い回答が「ゲームやインターネット、テレビを見ている」であり、スマートフォン、タブレットの普及が一因

となっています（保護者アンケート問15）。保護者アンケートでの子どもの自主的な読書を増やすにはどのようにしたらよいかとの質問では、「テレビ・ゲームをしない時間を作る取り組みをする」「子どもの年齢にあった本を紹介する」が過半数を超えていることから（保護者アンケート問17）、生活の見直しも含めて、様々な機会を通じて市や学校、図書館が、読書活動の重要性を伝えるとともに、電子書籍を含め多様な図書資料の整備を進めていくことが必要です。

3 子どもの読書活動推進のための具体的取組

(1) 図書館における今後の取組

図書館では、当計画の図書館における課題から、「児童の来館者数増」「乳幼児や小学校低学年の利用促進」「電子図書館等の充実」を3つの柱として今後の取組を強化します。

ア 児童の来館者数増に向けた取組

目標数値として、今回のアンケートで36%だった児童の地域図書館利用率について50%以上となるように努めます（児童アンケート問14）。

- ① 児童向けの資料の充実
- ② SDGs、LGBT、科学道など、子ども向けテーマ展示の充実
- ③ 「図書館を使った調べる学習コンクール」の充実
 - ・ 優秀作品の館内展示、電子図書館への登録
 - ・ 調べる学習講座の実施

イ 乳幼児、小学校低学年への利用促進

現在、0～12歳の利用登録者数が年間100件前後となっています。幼いうちからカードを登録することで、その後の図書館利用につなげたいと考え、0～12歳の年間登録者数200件を目指します。

- ① 赤ちゃん絵本コーナー等、資料を選びやすい書架づくり
- ② 子ども向け講座やイベントの充実
 - ・ 工作会や四季のイベントの拡充
 - ・ 読書通帳の利用促進等
- ③ 幼稚園・保育園・小学校への図書館見学の強化
 - ・ 子どもたちの利用カード登録の強化

ウ 電子図書館や電子コンテンツの充実

電子図書館も利用率を現在の7%から15%へ引き上げられるよう取り組みます（児童アンケート問16）。

- ① 電子図書館の資料の充実・郷土資料の登録
 - ② 千年ロマンデジタルアーカイブの強化・副読本の利用
 - ③ 授業や朝読書などで、電子資料が利用できるような環境づくり
- エ 広報・啓発の促進
- ① 「桂畔」「ジュニア桂畔」の発行
 - ② ホームページ、Facebook の随時更新
- オ 関係機関との連携・協力の促進
- ① 小・中学校への団体貸出の増加
 - ② ボランティアとの連携・協力

(2) 学校における今後の取組

子どもの読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で、大切な活動であります。

これまでも、「朝読書」や「授業での図書館活用」の取組をはじめとして読書活動の推進を図ってきましたが、今後も下記の取組を推進していきます。

ア 「朝読書」の継続、「授業での図書館活用」の推進

全ての学校で実施している「朝読書」の継続を図るとともに、学校図書館を活用した授業を推進します。

イ 読み聞かせの継続、図書紹介活動の推進

自ら本に手を伸ばす子どもを育てるため、地域や保護者による読み聞かせを継続するとともに、図書館指導員や教職員、子どもたちによるブックトーク等、図書の紹介活動を推進します。

ウ 学校図書館の環境整備

「読書が嫌い」と感じる子どもの割合を16%から0%に近づけるよう、読みたい本が手に取れる、子どもが行きたくなる学校図書館を目指し、図書標準比率を満たす学校数が50%を超すように計画的な図書購入を実施し、蔵書の充実に努めます。

エ 読書に親しむ取組の推進

「読書週間」や「家読」等、読書に親しむ取組を推進します。

オ 市立図書館との連携

市立図書館や学校図書館とのネットワーク化に努め、連携を深めます。

(3) 幼稚園・保育園における今後の取組

乳幼児期に読んだ本は、大人になってからも心に残り、その時の本を読ん

だ楽しさ、また、読んでもらったことの喜びは生涯にわたり、その人の支えとなることもあります。

読書が習慣として身につけ始めるこの時期に、読書に対する興味や関心がより広げられるよう、次の取組を行っていきます。

ア 読み聞かせの取組

職員やボランティアの「絵本の読み聞かせ」を引き続き実施し、様々な本に親しめるようにします。

イ 読書コーナーの充実

職員を中心に、子どもたちに読んでほしい絵本や子どもたちの興味関心がある本を選書し、読書コーナーを充実させていきます。また、子どもたちが身近に本や図鑑にふれ、いつでも手に取ることができる機会を作ることによって本への興味・関心を育みます。

ウ 発達段階に応じた取組

発達段階を考慮し、読んでほしい絵本を選書したり、読み聞かせの仕方を工夫したりします。

エ 家庭での取組、保護者への働きかけ

週1回以上の家庭での読み聞かせの推進に努めます。保護者へ読み聞かせの様子や優良図書を紹介しながら、読書活動に関する意義を伝えていきます。

オ 職員の研修の充実

職員が、読書活動に関する情報や良書に関する情報を得たり、それを交流したりします。また、読書や読み聞かせに関する講習会や研修会に積極的に参加します。

カ 市立図書館との連携

市立図書館と、絵本や読書活動に関する情報交換を行い、連携していきます。

(4) 地域・家庭における今後の取組

① 地域における今後の取組

子どもの読書活動を推進するためには、子どもに関わる施設や団体、子どもの周囲の大人たちが、相互に情報を交換し、連携・協力していくことが必要です。

ア 読み聞かせボランティアグループのネットワーク強化・活動の推進

市内の読み聞かせボランティアグループ18組により、「豊後高田市読み聞かせ友の会」を結成し、ネットワークを活用した情報交換や研修参加を

行っています。今後も継続して情報交換や研修を開催し、ネットワークのさらなる拡大化とボランティアの資質向上を図り、読み聞かせやイベント等の取組など、子どもや保護者へ絵本の楽しさを伝える機会を提供します。

イ 人材の確保・育成

読み聞かせやペープサート等、子どもの読書を推進する活動を増やし、より充実させていくためには、新たな人材と読み聞かせの資質向上が必要です。読み聞かせメンバーの募集を行うとともに、ボランティア等の読み聞かせの技術向上をめざし、人材の育成を進めます。

② 家庭における今後の取組

「読み聞かせをする」、「子どもと一緒に本を読む」、「図書館に出向く」など、保護者自身が子どもと共に本にふれあう機会をつくることの大切さについて理解を深めることが必要です。学校支援地域本部事業、家庭教育支援事業、市 PTA 連合会活動等、子どもに関わる事業や関係機関と連携を図りながら様々な取組みを行います。

ア 読書の大切さを伝える講座や絵本原画展等の開催

イ 読書を通じてコミュニケーションの機会を増やす「家読」や読書に親しむ環境づくりの大切さ等について情報提供での、家庭における読書活動の推進・啓発

- ・市報での読書特集
- ・子育て情報誌「ほのぼの通信」発行
- ・「家読」を推進するチラシ等の発行